

令和8年度協働事業提案制度公開事業報告会 結果報告

1 日時

令和8年6月20日（土） 午前9時00分～午前11時40分
（その後、午後0時30分まで事業審査作業部会意見取りまとめ）

2 会場

けやき会館2階 大研修室
（審査作業部会意見取りまとめは中研修室）

3 報告会対象者

令和7年度が最終年度の事業（5事業）及び令和8年度が最終年度の事業（1事業）の実施団体
及び事業担当課

4 参加者

32名
（内訳）団体10名、事業担当課9名、市民フォーラム8名、傍聴者5名

5 審査員の評価

各事業の成果に対し、4項目4段階で評価を行った。

評価項目 事業の有効性、協働の有効性・効果、役割分担の適切性、経費の適切性

評価区分 a：高く評価できる b：評価できる c：あまり評価できない d：評価できない

※評価点は、a＝4点、b＝3点、c＝2点、d＝1点と置き換え点数化し、
80点満点（審査員5名×4項目×4点）を100点満点に換算。

No.	事業名	評価点 (100点満点に換算)	主な審査会意見
1	里山保全・再生と活用のモデル検討事業	94	<ul style="list-style-type: none">○市民が里山に出向く機会が増えていることが確認でき、里山の魅力を身近に感じてもらう取組として評価できる。今後も、市民ニーズとイベント等をうまく結び付けながら、より多くの方が里山に関心を持つきっかけとなることを期待する。○森林地域での活動であることから、参加者が安心して楽しめる環境づくりが大切である。近年の気候状況や野生鳥獣への対応も踏まえ、安全面に十分配慮しながら、取組をさらに充実させていきたい。○今後の継続的な展開に向けて、活動を支える人材の広がり期待される。地域団体や関係者とのつながりを深めながら、多様な市民が参加できる機会を広げていきたい。

2	<p>「さがみん条例」の1つのシンボルとなる相模原市オリジナル教育プログラム＝「シビックプライド向上ゲーム」開発事業</p>	88	<ul style="list-style-type: none"> ○シビックプライドの向上に向け、ゲームを活用して地域の魅力を伝える手法は、子どもや新たに相模原市民となる方にとって親しみやすく、有効な取組であると評価できる。 ○今後も、ゲームを通じて楽しく地域を学べるという本事業の良さを生かしながら、学校や地域活動などさまざまな場面で活用され、子どもたちや市民が地域の魅力に触れる機会が広がることを期待する。 ○作成したクイズやコンテンツについて、イベント参加者だけでなく、家族や地域の中でも楽しめるよう、活用の方がさらに広がることを期待する。
3	<p>野生鳥獣被害の実態や対策、生物の多様性を周知する事業</p>	91	<ul style="list-style-type: none"> ○野生鳥獣を単に駆除の対象とするのではなく、共生の視点を持って取り組んでいる点は評価できる。やむを得ず命をいただく場合であっても、それを無駄にしないという姿勢は大切であり、今後も大事にしていきたい。 ○捕獲後の活用や共生のあり方について、今後さらに取組が深まることを期待する。人と野生鳥獣がどのように住み分け、共存していくのか、関係部局とも連携しながら検討を進めていきたい。 ○野生鳥獣被害への対応においては、被害状況の把握や情報収集も重要である。デジタル技術の活用なども含め、地域の状況をより分かりやすく共有し、事業の発展につなげていきたい。
4	<p>「城山自然の家」を観光ゲートとした城山エリアでのe-bikeツアーの造成</p>	77	<ul style="list-style-type: none"> ○e-bike ツアーと「城山自然の家」を観光ゲートとして活用する取組は、城山エリアの魅力発信につながる可能性がある。今後は、事業の目的や地域資源とのつながりをより分かりやすく示すことで、さらに魅力的な取組になることを期待する。 ○「城山自然の家」周辺には、ホテル、畑、神社、本沢ダム、豊かな自然環境などの地域資源がある。これらの魅力をより具体的に伝え、「行ってみたい」と思ってもらえるような見せ方や楽しみ方の工夫を期待する。 ○今後も e-bike を活用していく場合には、利用者が安心して楽しめる仕組みづくりが重要である。車両の点検、利用ルール、事故防止策、管理体制などを整えながら、安全で魅力ある取組として継続していきたい。

5	里山の自然を未来へつなげるための担い手育成事業	94	<ul style="list-style-type: none"> ○里山地域において子どもや若い世代の参加が少ない中、担い手育成に取り組み、少人数であっても参加者がいることは明るい材料であり、評価できる。今後の広がり期待したい。 ○若い世代に地域を知ってもらうきっかけづくりとして、学生や高校生、大学サークル等を対象とした宿泊体験や短期の活動体験なども有効である。地域の人との交流を通じて、里山への関心や愛着が高まることを期待する。 ○市外からの参加に加え、市内の住民や団体、大学等へのアプローチにも可能性がある。地域に関心を持つ人材を市内から掘り起こし、継続的な担い手や関係人口の創出につなげていただきたい。
6	「ユニバーサルデザイン普及・啓発事業」	97	<ul style="list-style-type: none"> ○ユニバーサルデザインは、特定の人のためだけのものではなく、すべての人に関わる考え方である。本事業を通じて、その意識を広げる取組が行われたことは評価できる。 ○ユニバーサルデザインの考え方は、福祉、教育、まちづくりなど幅広い分野に関わるものである。今後も、関係する分野とのつながりを大切にしながら、市民が身近に感じられる機会が少しずつ広がっていくことを期待する。 ○市民の間では、ユニバーサルデザインという言葉や考え方をまだ十分に知る機会が多くないと考えられる。今後も継続的な普及啓発を行い、市民が身近なものとして理解できるよう、分かりやすい発信を続けていただきたい。

以上